

ロータリーの変化

宇治 内良 益雄

本来、ロータリーは自己の職業に、奉仕の考え方を導入することが基本であり、それでこそ忙しい職務を抱えている人も、社会の第一線で活躍している人も、自分の仕事に支障をきたすことなく、ロータリーの活動ができるのだと思います。ロータリーの事業のために自分の仕事に支障をきたすことはあつてはなりません。私たちはいつも職業奉仕について考えることが必要です。

次に、ロータリーの中心となる組織は、国際

ロータリー(RI)でも地区でもなく、一つひとつのクラブです。そのクラブ間の調整機関がRI、地区ですが、近年はRIが主導権を持つて各地区、クラブを引っ張っている図式が見られます。これはロータリーが単年度制で、一年任期のガバナーより、RIの役員、スタッフの方がロータリーに精通しているかのごとく錯覚している点があり、ガバナーといえどもRIに対して指導力を発揮しにくい状態にあり、それがロータリーをおかしくしているのではないのでしょうか。

ロータリーの組織の良い点の一つに、全ての情報が会長、幹事に集まるようになっていたことが挙げられますが、それゆえ会長は一年間、ロータリーについて会員の誰よりもよく研究します。RIの方向性で疑問に思うことがあれば、クラブの理事会で検討することが必要ではないのでしょうか。RIの考え方をうのみにしてはいけません。

皆さんは、近年のRI、ロータリー財団の投資収益のマイナスをどう感じられているのでしょうか。果たしてロータリーにおける投資行為はふさわしいのでしょうか。資金不足によるものか、誰でも入会させる、あるいはマスコミ受けするような事業を企画して世間の注目を集める、このようなことは、ロータリーの目的ではありません。本当に入会してほしいと思う人は、こんな団体に魅力を感じないでしょう。

今、ロータリーは負のスパイラルに陥っているように感じます。この状態から一刻も早く脱出するため、本来あるべき姿はどうか、一会員として賢明なる皆さまのご指導を望んでいます。

ます。